

外国語

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00061915

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



外国語

中橋 弘高

田中 里美

石川 理恵

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

新学習指導要領における外国語の目標は、実際のコミュニケーションの場で活用できる知識・技能を身に付けること、コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について表現したり伝え合ったりできるようになること、コミュニケーションの対象となる相手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことである。新学習指導要領解説では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目標としている。さらに、英語を聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの4技能5領域別に目標が設定され、具体的な言語活動や言語の使用場面・働き等が記されている。

本校の英語科では、教科の目標の実現のために、近年3学年間を通じた授業冒頭で行っている即興での対話活動と年間約3回の発表活動を重視して取り組んでいる。1時間の授業や1つの単元だけでは、教科の資質・能力は容易に身につかないと考えるからである。また、生徒が英語で対話をしたり発表したりする機会を持つことは、学校以外ではなかなか難しいため、意義がある活動であるととらえている。即興での対話活動は毎時間継続し、1年生では50秒～70秒、2年生では70秒～100秒、3年生では100秒～120秒と学年により段階を踏んだ時間設定をしている。対話後には、生徒はさらに相手を変えて全体の前で対話をしたり、対話についての質問に答えたり(Q&A)、対話からわかったことをまとめて報告したりしている。また、今年度より3年生では、80～100語程度の長文を読んで理解したことを踏まえた意見交換(discussion)もしている。

本校では研究主題に基づき、Society5.0を主体的に生きるための10の資質・能力を定めている。その中でも、英語科では特に、「デザイン思考」「多様性の尊重」「論理的思考」「イノベーターのマインドセット」「対話する力」を全学年共通の資質・能力として育成することを目指す。その理由として、世界には多様な文化や考えを持つ人がいることを理解した上で（「多様性の尊重」）、英語で意欲的にやり取りをすること（「対話する力」）や英語で自ら新しいものを提案したり創造したりすること（「デザイン思考」）で学びを深めて論理的に発表し（「論理的思考」）、たとえうまくいなくても次の解決策を考えて前進すること（「イノベーターのマインドセット」）が英語の学習において実現可能であると考えからである。

英語の教科書では、「国際・異文化理解」「世界平和」「人権・福祉」「環境」など社会的な諸課題について考える題材が扱われており、実社会と幅広くつながりがある。ただ、実社会での問題解決能力を育成するためには、授業で実際の場面を想定して考える機会が必要である。これまで英語科では、必ずしも社会的な諸課題について考える自然な場面を十分に設定できていたとはいえない。そのため今年度は、コミュニケーションの場面設定を工夫していくとともに、生徒が創造的に思考・判断・表現ができる場を意図的に授業に仕組んでいきたい。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

英語科では、コロナ禍の年度当初に、3学年一斉にアンケート調査を実施した。これは、昨年度までの生徒の英語学習に対する意識調査で、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質能力と英語の資質・能力の実態を把握するためのものである。結果は、以下の表1の通りである。

表1 英語の学習アンケート調査(2020.4) 「(とても) そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

質問項目	1年生4月	2年生4月	3年生4月
①英語の授業で学習したことは将来役に立つ	97% (82%)	94% (77%)	97% (83%)
②英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた	90% (40%)	90% (47%)	95% (46%)
③英語の授業で自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして伝えることができるようになった	88% (41%)	86% (43%)	96% (44%)
④英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい	88% (43%)	73% (37%)	82% (44%)
⑤英語で外国人と直接会って対話(会話)をしてみたい	82% (53%)	79% (51%)	81% (50%)
⑥海外に住む人と英語で交流(メール, 手紙, テレビ電話)してみたい	83% (48%)	78% (45%)	80% (51%)

() 内: 「(とても) そう思う」と答えた生徒の割合

質問項目①のアンケートの結果より、本校の生徒たちは、英語の授業で学習している内容は、実社会とつながっていると感じている割合が総じて高いといえる。実際、生徒たちは英語の学習全般において意欲的で、筆記テストのみならず、普段の授業での活動や課題・作品、パフォーマンスなどでも力を発揮しようと努めている。

質問項目②③は、本校が定める資質・能力の中では「対話する力」「論理的思考」に関連している。また、生徒が英語の授業を通して、実際に英語で表現したり伝え合ったりできるようになったと感じているかを尋ねる設問である。先でも述べた授業での対話活動や発表活動などを通して、生徒たちは話すこと[やり取り][発表]の力が身につけていると感じているようである。実際に生徒の話す[やり取り]力の推移を特に把握するため、今年度よりALTの協力のもと、スピーキングテストを全学年で年2回(今年度は8月と12月)実施する予定である。

質問項目④～⑥は、本校が定める資質・能力の中では「イノベーターのマインドセット」に、さらに④は「デザイン思考」「論理的思考」、⑤⑥は「多様性の尊重」にも関連している。英語の4技能5領域を駆使して、実践的にコミュニケーションを図ろうとする態度があるかを知るための設問でもある。本校の生徒たちは、他の生徒と意見に違いがあることを理解しており、授業での対話や発表でも各々の意見を伝え合っている。また、⑤⑥より異文化の相手を対象に対話や交流をしたいと望んでいることから、多様性を尊重する姿勢(「多様性の尊重」)が少なからずあるととらえている。しかし、その内容を深めたり、根拠や理由を述べたりするなどの「論理的思考」についてはまだ十分とは言えない。また、質問項目①～③に比べて、質問項目④～⑥に否定的な意見が若干多いのは、新しいことに挑戦したり提案・企画したりすることに抵抗感を持っている生徒がいるからではないかと考える。つまり、本校の生徒には、新しいことを論理的に提案・企画し、間違えても前進することを躊躇うところがあると推測でき、また、そのような様子が普段の授業からもうか

がえることがある。そのため、本校の生徒は、「新しいことを論理的に提案・企画し、間違えても前進することを躊躇うところがある」ことを課題として捉え、これまで同様「対話する力」「多様性の尊重」の育成を図りながら、「デザイン思考」「論理的思考」「イノベーターのマインドセット」も育成する授業実践に取り組んだ。

今年度1年生では「ウィズコロナ時代の中、附属中前に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。どんなメニューがよいか考えて提案しよう」、2年生では「アフリカの子どもたちのためにレッドカップキャンペーン商品を企業に提案しよう」、3年生では「実社会で活用できるエコ商品を作ろう」などの授業の課題を設定した。こうした実践を踏まえて、12月に生徒の意識がどのように変化したかをアンケートなどから比較検討したい。

(2) 関連・連携を図った教科等について

- ・1年生では、「ウィズコロナ時代の中、附属中前に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。どんなメニューがよいか考えて提案しよう」という課題の授業を実践した。ランチメニューを考案する当初の段階において、マッピングを用いながら、顧客のニーズを基盤にアイデアを創出する学習活動がある。その際に、1年生の技術・家庭科の家庭分野で学んだ「食品群に関する知識」や「食事の文化的側面に関する知識」を活用し、顧客の希望に沿って論理的に思考し、解決策を提案できた。
- ・2年生では、「アフリカの子どもたちのために、レッドカップキャンペーン商品を企業に提案しよう」という課題の授業を実践した。以前に生徒が独自に考案した校内チャリティイベントでレッドカップキャンペーン商品を販売するという設定で、新たにWFP(国連)のレッドカップキャンペーン(学校給食支援)に賛同してもらえるよう、実在する地域の企業に対して提案文を書きプレゼンをした。今後は、校内掲示や学校HPなどでも公開する予定である。1年生の社会科(地理)で学んだ「アフリカの課題と展望」を受けて、アフリカの課題に対して論理的に思考し解決策を提案できた。
- ・3年生では、現代社会における環境問題対策をテーマとして、「実社会で活用できるエコ商品を作ろう」という課題の授業を実践した。江戸時代におこなわれていたエコ活動を知り、現代に適した環境問題対策を考えた。社会科全学年「環境やエネルギーに関する課題」の単元では、世界や日本国内における環境問題について学習できた。そこに、2年生の理科「消費電力について」で学んだ、今後の生活における節電の知識を取り入れることで、現代社会に適した環境問題対策を考案することができた。

3. 成果と課題

(1) 第1学年の成果と課題

1年生では、「デザイン思考」と「論理的思考」の2つの資質・能力を重点的に育む活動の考案・開発を試みた。実践事例の授業の課題は「ウィズコロナ時代の中、附属学校園に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。メニューを考案し、ポスターで提案しよう」である。単元終了後のアンケートにおいては、「英語で新しい提案・企画をしてみたいですか」の設問に対し、「してみたい」の回答が、93%であり、生徒は、ねらいとする資質・能力につながる力を付けることができたと捉えている。また、「単元を通して特についた力やできたことは何ですか」の設問に対しては、「対話する力」「デザイン思考」「論理的思考」を選択した生徒が、それぞれ全体

の39%、32%、27%を占め、これらの資質・能力を育むことにつながった活動は、それぞれ「アイディアを磨くためのペアやグループでの対話」、「ポスターを書く活動」、「教科書本文に続く内容を考える活動」であるとの結果が得られた。さらに、全体の93%の生徒が「単元を通して話す力がついた」と回答し、「対話する力」の向上を実感している。

この授業の考案に当たって最も重視したことは、生徒が「考えたくなる・話したくなる」場面設定である。最終ゴールを相手意識・必然性・ほんもの・コミュニケーションの楽しさや意義の四点と定め、これらを授業設計に反映することで、生徒が高い意欲を持って言語活動に取り組み、育成すべき資質・能力を十分に身につけることができると考えた。授業後のワークシートの振り返りには、活動に対する生徒の意欲の高さを示す記述が多く見られた。以下に生徒が書いた振り返りの一部を示す。

- ・ 小学校でこんな風に英語でポスターを書いたことがなかったので、とても楽しかった。
- ・ 知らない単語を知り、英語の世界が広がり、楽しいと感じることができた。
- ・ コロナ対策のアピールポスターや設備、サービスのアピールポスターも作りたいと思った。

生徒が作成したポスター



本校が定める資質・能力のうち、英語科では、年間を通して5つの資質・能力の育成を図った。中でも、1年生では、「デザイン思考」「論理的思考」を重点化し、実践事例の授業までの単元において継続的にこれらを育んでいくこととした。その際、前者を「試行錯誤しながら、設計者もユーザーも一体になって、作りながら考え、考えながら作ること」、後者を「正しい筋道で物事を考えること」と定義づけた。その上で、4月にアンケートを行い、生徒が学習に先立ってどの程度これらの力をつけてきたと認識しているか調査を行った。その結果、生徒は、小学校での外国語の授業を通して「対話する力」や「論理的思考」、「イノベーターのマインドセット」や「デザイン思考」に関連のある力を身につけてきた実感を得ていることが分かった。

この結果を踏まえて、「対話する力」については、帯活動の即興対話活動(Our Daily Project)で与えられたトピックについてペアで60秒間、英語でやり取りする活動を毎回の授業の開始時に継続して行うことで、「論理的思考」については、教科書の英文の内容理解を行う時間に、最終文の後に続く登場人物の発言や出来事について根拠をつけて表現する活動を積み重ねることで、その育成を図った。表2に、4月と12月に行った比較アンケートの結果を示す。

表2 4月と12月に実施したアンケート結果比較(1年生)

質問項目	4月	12月	全体増減	()増減
①英語の授業で学習したことは将来役に立つ	93%(82%)	97%(75%)	+4	-7

②英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた	90%(41%)	93%(50%)	+3	+9
③英語の授業で自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして伝えることができるようになった	88%(42%)	91%(38%)	+3	-4
④英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい	89%(44%)	76%(34%)	-13	-10
⑤英語で外国人と直接会って対話（会話）をしてみたい	82%(53%)	75%(41%)	-7	-12
⑥海外に住む人と英語で交流（メール、手紙、テレビ電話）してみたい	83%(48%)	75%(39%)	-8	-9

「(とても)そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

()内:「(とても)そう思う」と答えた生徒の割合

上記の②および③において、それぞれ肯定的な回答の割合が多くを占めていることから、「対話する力」と「論理的思考」の素地となる資質・能力が養われ、本単元とそれに至るまでの活動は、ねらいの達成に十分に資するものであると考えられる。

課題は、活動時間の確保と、比較アンケートの④において、生徒が「デザイン思考」「論理的思考」に関連のある力をつける活動への意欲が低下していることである。前者については、授業後の振り返りシートでは、次のような記述が多く見られた。生徒それぞれが顧客視点で知恵を絞ること、その結果を顧客に伝わるように適切な英語の表現を選ぶこと以外に、絵を描いたり、文字を装飾したりする過程に時間がかかるところに改善の余地があることが分かる。

- ・あんまり考えたことがない内容だったので、思いつくのに時間がかかった。メニューを考えるのも一苦勞だったが、値段を考えるのも難しかった。
- ・たった一枚のポスターでも時間がかかりました。
- ・英語だけでは伝わらないので、分かりやすく絵を書いたりして時間がかかりました。

後者の「論理的思考」については、以下に示す授業後の振り返りシートに見られた記述から、語彙力や文法に関する知識の不足が新しいことに挑戦したり提案・企画したりすることに対する意欲の低下へとつながった可能性が考えられる。

- ・この授業を通して、単語力が足りないと思いました。書きたいことがあっても単語が分からないとかけないので、時間がかかってしまいました。
- ・自分の単語力のなさ、文章校正力のなさにうんざり、がっかりした。
- ・英語では言葉の順番（が難しい）。主語はどこに入れればいいのか難しかった。

これらのことから、今般の実践事例の授業で行ったような自由度の高い言語活動を行う際には、生徒のレディネスの見取りを精緻化し、活動の内容や時間を含む単元計画をさらに綿密に立てること、また、使用する語彙や文法に関する知識の個別的な支援が必要であると考えられる。

(2) 第2学年の成果と課題

2年生では、「対話する力」と「論理的思考」の2つの資質・能力を育成するために、「アフリカの子どもたちのために、レッドカップキャンペーン商品を企業に提案しよう」という課題で実践事例の授業を実施した。授業では、自分が選んだ企業のレッドカップキャンペーン商品とその根拠をペアで伝え合い、さらに企業の社長との対話を想定した即興対話を行った後、企業の社長に向けた提案文を書いた。「対話する力」を育成するための即興対話では、事前に書いた企画書のキーワードをもとに相手を変えて対話を重ねることで、生徒は顔を上げて対話を深めようとしていた。また、企業の社長からの手紙を受けて、レッドカップキャンペーンについての説明と商品を選んだ根拠、企業理念に

合致するかを論理的に提案文で書けるようにした。

即興対話の様子



生徒が書いた提案文

Dear Robert Suzuki

Hello. Thank you for sending us a letter. I chose your company because your store is near Fuzoku junior high school. And I think almost all people will probably know your company. Your company is using local foods, right? So customers will be relieved. Then I chose "Shiramame Daifuku" because it's popular with wide age groups. Also your product is not expensive, so customers can buy them cheaply. By the way, I'll tell you about the Red Cup Campaign. If you join it, you can save kids in about sixty countries. I think it connects to your corporate mission "to connect to people's happiness." If we give 5,000 yen, a child in developing countries can eat (school lunch) for a year. They get meals with red cups. I want to save them, so please join the Red Cup Campaign.

Sincerely,

Kindai Fuzoku J.H.S. 8th Grade

(Name)

実践事例の授業直後に生徒にアンケートをとったところ、「対話する力」は99%、「論理的思考」は84%の生徒が身についたと回答した。また、実際の企業に提案するという設定について、以下のような感想が見られた。

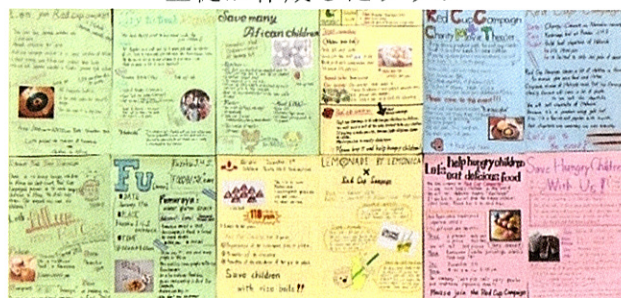
- ・実在しない企業に対して書くより面白かった。
- ・現実味があり、とてもやる気が出て楽しかった。
- ・企画書まで作ったので、本当にしているみたいで楽しかったです。
- ・とても難しく、頭を振り絞って考えました。でも、とても面白くまたやりたいと思いました。
- ・たくさん企業についての知識をつけなければいけないことを知り、すごく面白かったです。
- ・企業に提案するという設定がいいと思った。そうすることで、みんな企業についてたくさん調べ、英語にしようとする努力するから。私はそれを楽しんだと思った。

実践事例の授業と同じ単元では、その後、グループと企業の社長に見立てたALTへの提案プレゼンと即興の質問、企業の立場でレッドカップキャンペーン商品をアピールするチラシ作成に発展させた。単元終了後のアンケートから、実践事例の授業が単元を通して最も「実社会でも役に立ち、面白い」授業だったと生徒は感じたようである。「英語で新しい提案・企画をまたしてみたい」と88%の生徒が答え、4月（73%）に比べ大きな変化が見られた。

提案プレゼンの様子



生徒が作成したチラシ



12月に4月と同様のアンケートを実施した。表3の結果の通り、4月に比べて、特に増加が大きかったのが、問2「英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた」と問4「英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい」である。

問2「英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた」の「やり取りする力」については、授業前の即興対話（ODP）が特に効果があったとする生徒が多く、「日本語で考える前から英語が口から出てくるようになった」「英語での対話を広げられるようになった」という理由が見られた。また、ODP以外では、「1年次より即興対話をする機会が増え、みんなの前で対話することも増えた」とあった。実際、8月と12月に実施したスピーキングテスト（ペアでの即興対話）を比較すると、本校のALTによる評価では、『態度』（間を空けずに英語で対話を続けようとする姿勢）の項目で50%の生徒が、『英語の技能』（英語の流暢さ、発音）の項目では、27%の生徒がより良好な結果（C, B→A）に推移

した。「発表する力」については、普段の授業での発言を含め、My Project, retelling, ペアでの発表などで全員が発表する機会を設けたことで、生徒は発表する力がついたと感じたようである。しかし、2人での対話に比べて、全体の場では、「緊張して発表がうまくできない」など、一人で発表することに自信のない生徒もおり、支援が必要である。

問4「英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい」については、実践事例の授業以外に、6月に「おすすめする旅行プラン」、11月に「憧れの人や将来の夢をパワーポイントスライドで発表」などで実社会を想定した授業を意識して取り入れたことなどにより、英語で提案・企画することに対して、肯定的な意見を持つようになったと思われる。「視野が広がった」「自分で考えて提案するのは楽しい」「違った場面や方法で英語を使うことで、英語力を高められる」という理由や、「将来役に立つから」「実社会で大事(なこと)で、取引先が外国ということも珍しくないから」という理由もあった。一方、問4でそう思わない理由として、「英語の表現や文章を書いたり話したりするのが難しい」「何かを考えたり発表するのが苦手」などがあげられた。こうした苦手意識のある生徒が取り組みやすくなるよう、まとまった文章を書く際に、文の構成やつながりの語句などを伝えたり、ペアやグループで考えたり発表する場面を増やすなどしていきたい。

表3 4月と12月のアンケート結果比較(2年生)

質問項目	4月	12月	全体 増減	() 増減
①英語の授業で学習したことは将来役に立つ	94%(77%)	96%(75%)	+2	-2
②英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた	90%(47%)	97%(58%)	+7	+11
③英語の授業で自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして伝えることができるようになった	86%(43%)	90%(47%)	+4	+4
④英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい	73%(37%)	84%(44%)	+11	+7
⑤英語で外国人と直接会って対話(会話)をしてみたい	79%(51%)	80%(52%)	+1	+1
⑥海外に住む人と英語で交流(メール, 手紙, テレビ電話)してみたい	78%(45%)	79%(49%)	+1	+4

「(とても) そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

() 内: 「(とても) そう思う」と答えた生徒の割合

本校が定める資質・能力のうち、英語科では年間を通して5つの資質・能力の育成を図った。同じく12月に実施した生徒のアンケートで最も身についた資質・能力を尋ねたところ、「対話する力」「デザイン思考」「イノベーターのマインドセット」が特に身についたと生徒は回答した。「デザイン思考」については、「考えることの多い授業が多い」「場面を想像して英文を作るのでとても力になっている」などが、「イノベーターのマインドセット」については、「1年生のときより、たくさん発言するようになった」「失敗しても、次の活動や発表などにつながられた」などが理由としてあげられた。実践事例の授業を含んだ単元終了後に同様の質問をしたところ、「対話する力」「デザイン思考」「論理的思考」が最も多かった。12月のアンケートで、「イノベーターのマインドセット」の姿勢が身についたと答える生徒が増えていることから、「イノベーターのマインドセット」は、1単元だけで身についたと判断することは難しく、一定期間同じような活動を何度か繰り返すことで育成することができる資質・能力であると推察できる。その他の「論理的思考」と「多様性の尊重」についても、生徒は関連して身についた資質・能力としてとらえていた。今後も、生徒の実態を把握しながら、複数の資質・能力を長期的な視点で育てていきたい。

(3) 第3学年の成果と課題

3年生では、「実社会に活用できるエコ商品を作ろう」という実践事例の授業を実施した。ここでは、単元のテーマである環境問題について、他教科で学んだ知識を基にした新しいアイデア考案から発表までを計画的に考える「デザイン思考」、そして級友たちにその情報をより分かりやすく伝えるために必要な「対話する力」の育成が図れると考えた。

単元の導入として、ニュースで取り上げられていた海洋生物に関わる環境問題の記事を紹介したり、日本国内の過剰包装についての動画を見せたりした。また、江戸時代に行われていた水や油の再利用や、ゴミの削減につながるものの使い方を紹介することで、実社会に活用できる商品とは何かを考えさせるきっかけになり、単元への興味を持たせることができた。エコ商品の考案では、班で会社を設立し、企画部、デザイン部、広報部に分かれ、コロナ禍の授業でもそれぞれに活動が進められるようにした。考案するエコ商品のテーマを大きく「削減」「還元」「代替」の3つに絞り、生徒たち自身の日常生活からヒントを得られるようにした。生徒たちが興味を示したのは、ゴミの削減、待ち時間の削減、温室効果ガスの削減、別素材の利用、そして発電だった。商品案の決定から、デザインの考案、そして発表へと順を追って具体化させていった。また、発表では、相手に伝わるものになるように、未習語句をどのように言い換えることができるか、そして相手の購買意欲を高める発表になる工夫を考えさせた。発表後には、買いたい商品に投票し、相互評価をおこなった。以下は、事後学習としてまとめたエコ商品ポスターである。



単元学習後に生徒アンケートを取ると、生徒自身が特に身についたと思う英語科で主に育成される5つの資質能力は、「対話する力」54%、「デザイン思考」15%、「イノベーターのマインドセット」11%、「多様性の尊重」10%、「論理的思考」10%という結果になった。各資質能力について、生徒から次のような感想を聞くことができた。

「対話する力」

・ (広報として) It's too difficult for me to make a design idea. However, I can enjoy. I think that this machine is very useful to find lost things. If you use this machine, you can't lose a lot of time.

・ 英語でどのように「分かりやすく」伝えるか、という考え方を身に付けた。思っていることをピタリ表す表現はできないかもしれないが、努力して伝えようとした。

「デザイン思考」

・ エコ商品の開発など、グループで話し合い、創作する授業が楽しかった。発案からプレゼン/購入までのプロジェクトは本格的だった。また、してみたい。

・ I think we produced the best product of all because its design is very cute and it's useful to use every day. We made it hard with each other. I think it is very important and we did it. It made me happy. In the end, we got two prizes. We will make efforts harder.

「イノベーターのマインドセット」



・ It was very difficult for me to make a speech. I couldn't speak well in the presentation. I want to practice hard and make a speck perfectly when I have a project again.

「多様性の尊重」

・ To plan the product was difficult but exciting. I thought a member's idea was very intelligent and new. The products of other groups were also interesting.

・ To make a new product in a group is difficult for me because each of us had different opinions.

However, we could finish this product in the end. We had many problems to make it, but it was exciting.

「論理的思考」

・ A lot of negative effects are occurring. This is a very bad situation for the environment. Therefore, we focused on plants and developed clothes that do photosynthesis.

さらに、12月に実施したアンケートでも、英語学習に意欲的であることがわかった(表4)。コロナ禍の影響で、校外での人との直接的な関わりに対して消極的な面が見えたが、オンラインなどの間接的な出会いや関わりに対してより意欲的になっていた。一方で、実践事例の授業などを通して発表の力が身についたという実感を持ちつつも、人前での発表にはまだ自信が持てない生徒もいるようである。

表4 4月と12月のアンケート結果比較(3年生)

質問項目	4月	12月	全体増減	()増減
①英語の授業で学習したことは将来役に立つ	97%(83%)	99%(80%)	+2	-3
②英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた	95%(46%)	99%(59%)	+4	+13
③英語の授業で自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして伝えることができるようになった	96%(44%)	96%(60%)	0	+16
④英語で新しいことに挑戦したり提案・企画してみたい	82%(44%)	87%(51%)	+5	+7
⑤英語で外国人と直接会って対話(会話)をしてみたい	81%(50%)	83%(53%)	+2	+3
⑥海外に住む人と英語で交流(メール, 手紙, テレビ電話)してみたい	80%(51%)	81%(49%)	+1	-2

「(とても) そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

()内: 「(とても) そう思う」と答えた生徒の割合

帯学習として、毎時間、速読や即興対話をおこなっているため、「聞く」「話す」「読む」力が身についたと実感できている生徒が増えた。一方で、「書く」ことへの自信が低下しているようである。授業ではほぼ毎回、自分の考えを英語でまとめているが、時間内に内容をまとめられなかったり、新出文法を自然に用いることができなかつたりしていることが原因であると考えられる。今後は、場面設定に加え、文の教やキーワードを提示して、力の定着を感じられる授業を展開していく必要がある。

質問項目	聞く	話す	読む	書く
① 英語で得意なこと	26%→21%	6%→15%	48%→48%	20%→16%
② 英語の授業でもっと力をつけたいこと	19%→15%	55%→45%	6%→7%	20%→33%

4. 参考文献

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』（開隆堂）

文部科学省（2018）イノベーション対話ガイドブック 1

文部科学省（2020）なるほど！小学校外国語①言語活動（YouTube 動画）

実践事例

英語 1 年

授業者	中橋 弘高	授業日	10月29日(木)
授業クラス(時限)		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
1年3組(4限)		家庭「衣食住の生活」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考 ・論理的思考 		<ul style="list-style-type: none"> ・考えと根拠を的確にまとめ、弁当のメニューについて説得力のあるポスターを書くことができる。【外国語表現の能力】 	
実社会とのつながり			
<p>新型肺炎の拡大により、経済が停滞している現状において、飲食店経営者として顧客のニーズを探り、サービスとして実現化する場面設定を通して、前例のない問題や未知の課題に対し、最もふさわしい方策を論理的に考えながら課題解決力を養うことができると考える。</p>			
<p>本時の授業のねらい 自らの考えとその根拠を的確にまとめ、出店者に賛同を得られるポスターを書く。</p>			
授業の流れ・活動等			時間
1. 前時までの復習			5分
<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーカードを用いて町紹介について、前時の復習をする。 ・学習ゴールを確認する。 			
<p>課題 ウィズコロナ時代の中、附属中前に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。どんなメニューがあるとよいか考えて提案しよう。</p>			
2. 個人でのブレインストーミング			10分
<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングを用いてメニューについてアイデアをまとめ、セールスポイントを3点に絞る。 ・顧客視点からアイデアを練る。 			
3. 即興対話①			5分
<ul style="list-style-type: none"> ・考案したメニューについてペアで即興対話をする。 ・対話の結果、内容や表現など必要な情報があればマッピングに付け加える。 			
4. 内容の再構築			10分
<ul style="list-style-type: none"> ・学年担当の先生方による「理想のランチメニュー」に関する英文を2回聞く。一度目はメニューの内容、二度目は英語の表現に注意を向けて聞く。 ・聞いた英文のスク립トを配布し、見えそうな英語表現の参考にする。 ・内容や表現などの参考になる情報をマッピングに付け加える。 			
5. 即興対話②			5分
<ul style="list-style-type: none"> ・再考したマッピングを基に、ペアを変えて伝え合う。 ・対話の結果、必要に応じてマッピングを修正する。 			
6. ポスターを書く			10分
<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい情報を文字のサイズやレイアウトで表現する。 			
7. 振り返り			5分
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを書く。 			

1年 単元名「Program 8 Origami」

単元計画（9時間扱い）本時は7時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■助動詞を用いて、自分のできることを表現し合う。 ①ペアでできることを話し合う。 ②話し合った結果を別の人に伝える。	○助動詞を用いて、自分のできることを積極的に伝えようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	
	2	■折り紙で作った人形についての大介のスピーチ文を、聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ①登場人物の次の発言を予測し、表現する。	○書かれている内容を正しく理解することができる。 【外国語理解の能力】	
	3	■級友に関する情報を集めるために、助動詞を用いてできることやできないことをたずねる。 ①級友に関するクイズを行う。 ②助動詞を用いて質問する。	○必要な情報を集めようと、助動詞を用いて、相手にできることをたずねることができる。 【外国語表現の能力】	
	4	■折り紙についての大介とマイク、ウッド先生の対話文を、聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ①登場人物の次の発言を予測し、表現する。	○書かれている内容を正しく理解することができる。 【外国語理解の能力】	
	5	■疑問詞を用いて、自分の通学方法および居住地について表現し合う。 ①ペアで距離や通学法について話し合う。 ②話し合った結果を別の人に伝える。	○疑問詞を理解し、通学方法をたずねることができる。 【外国語表現の能力】	
	6	■折り紙との出会いについてのウッド先生と日本人女性との対話文を、聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ①内容を受けて登場人物に手紙を書く。	○書かれている内容を正しく理解することができる。 【外国語理解の能力】	
2	7 本時	■ウィズコロナ時代に合った弁当店のメニューを考案し、ポスターを作って提案する。 ①マッピングでアイデアを練る。 ②対話やリスニングでアイデアを磨く。	○考えと根拠を的確にまとめ、弁当のメニューについて説得力のあるポスターを書くことができる。 【外国語表現の能力】	(家庭:衣食住の生活) 「デザイン思考」 「論理的思考」
	8	■ポスターを作成する。	○効果的なポスターを作成できる。【外国語表現の能力】	「デザイン思考」 「論理的思考」
	9	■作成したポスターを使ってグループ内でアイデアを発表し合う。 ①セールスポイントが聞き手に伝わるようにグループでプレゼンテーションをする。	○意欲的にポスターでアイデアを提案している。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	「対話する力」 「多様性の尊重」
	後日	前時で作成したポスターを掲示し、相互評価する。		

実践事例

英語 2 年

授業者	田中 里美	授業日	10月30日(金)
授業クラス(時限)		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
2年1, 2組(3, 4限)		社会(アフリカの課題と展望)	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> 対話する力 論理的思考 		<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ企業と商品について、理由などを入れて説得力のある提案文を書くことができる。【外国語表現の能力】 	
実社会とのつながり			
<p>海外から輸入しているものは身の回りにたくさんあり、教科書ではアフリカ産のカカオ(チョコレート)などがあげられている。生徒が以前の単元で企画した本校開催のチャリティイベントとアフリカなどの子どもたちの給食を支援するWFP(国連)の取り組み(レッドカップキャンペーン)をつなげ、イベントでレッドカップキャンペーン商品を販売してくれる企業に提案するという設定とした。レッドカップキャンペーンの対象商品が日本の店頭などで実際に売られていることに触れ、生徒は事前の企業調べと商品調べを通して、企業への提案文を考える。班やクラスで企業に向けたプレゼンをし、聞き手は企業の経営者になったつもりで質問をする。提案文は校内に掲示したり学校のHPなどで公開する。</p>			
本時の授業のねらい			
<p>チャリティイベントでレッドカップキャンペーン商品を販売する企画に賛同してもらえるように、企業に向けた提案文を書く。</p>			
授業の流れ・活動等			時間
1. あいさつ			2
2. レッドカップキャンペーンに賛同してくれる企業について対話をする。レッドカップキャンペーンの対象商品に適した商品やその企業を選んだ理由も伝え、疑問に思ったことは互いに質問し合う。(普段の授業の即興対話活動として行う)			4
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題：アフリカの子どもたちのために、企業にレッドカップキャンペーンに賛同してもらえるように提案しよう！</p>			1
3. 企業(代表者)が提案で求めること(対象商品を選んだ理由、レッドカップキャンペーンの目的、企業理念に沿っているか)を書いた手紙を読む。提案で必要と思われる語句などを載せておく。			3
4. 企業からの手紙をもとに、提案内容を整理して企画書を書く。タブレット端末で必要な内容を調べる。			12
5. 企画書をもとに、企業に提案する内容を、立場を変えて互いに伝え合う。			4
6. 全体の場で数名が教師(企業の代表者)からの質問に答え、考えを共有する。			3
7. 表現や伝え方など工夫しているところをもとに、タブレット端末でさらに調べ、企画書を再度修正する。			3
8. 企画書をもとに、違う相手とも企業に提案する内容を互いに伝え合う。			3
9. 実在する企業に向けた提案文を書く。			13
10. 今日の授業を振り返り、気づいたことや感じたことなどを書く。			2

2年 単元名「If You Wish to See a Change」

単元計画（11時間扱い）本時は9時間目

次	時	学習内容・ねらい (■) 主な活動等 (丸数字)	評価規準・手立て (○) 指導上の留意点 (・)	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■するのが楽しいことを1つ紹介する。 ①動名詞を使ってするのが楽しいことを話す。 ②するのが楽しいことを1つ紹介する。	○続けていることであるのが楽しいことを話そうとしている。【関心・意欲・態度】	
	2	■セヴァン・スズキの伝説のスピーチを視聴して学んだことを伝える。 ①教科書本文の内容を読み取り音読する。 ②スピーチの映像で感じたことを話し合う。	○スピーチで感じたことを話そうとしている。【関心・意欲・態度】	(理科：地球環境問題)
	3	■今年有名になった人(もの)について話す。 ①look (become) 形容詞で感じたことを話す。 ②今年有名になった人(もの)について書く。	○今年有名になった人(もの)について英語で話している。【外国語表現の能力】	
	4	■大人になったセヴァンが訴える課題から、身近な輸入品について考える。 ①教科書本文の内容を読み取り音読する。 ②世界からの輸入品についてまとめる。	○身近な輸入品について書いている。【外国語理解の能力】 ・アフリカからの輸入品の多さに気づかせる。	(社会：アフリカの課題と展望)
	5	■誕生日に誰に何をあげるかを書く。 ①give を使って誰に何をあげるかを話す。 ②大切な人への誕生日プレゼントを考える。	○大切な人へのプレゼントを英語で書くことができる。【外国語表現の能力】	
	6	■世界の貧困問題のために自分たちにできることを考える。 ①教科書本文の内容を読み取り音読する。 ②世界の貧困問題の現状について話し合う。	○自分たちにできることを考えている。【外国語理解の能力】 ・WFP (国連) のレッドカップキャンペーンを思い出す。	(社会：アフリカの課題と展望)
2	7	■教科書の内容を自分の言葉で伝える。 ①内容をペアに retelling し、質問に答える。	○本文の内容を自分の言葉で伝えている。【知識・理解】	
	8	■レッドカップキャンペーンを提案するのに適した企業と商品を考える。 ①県内の企業をタブレット端末で調べる。 ②チャリティイベントとキャンペーンへの賛同を依頼する企業と商品を決める。	・Program3 で考えた附属中独自のチャリティイベントと関連させる。 ○目的に合ったものを調べようとしている。【関心・意欲・態度】	「デザイン思考」
	9 本時	■アフリカの子どもたちのためにレッドカップキャンペーン商品を企業に提案する。 ①ペアで理由を述べながら提案する企業と商品についてやり取りする。 ② 目的と企業理念を踏まえた提案文を書く。	○企業と商品について、説得力のある提案文を書くことができる。【外国語表現の能力】 ○提案文が書きやすくなるよう参考英文や対話を入れる。	(社会：アフリカの課題と展望) 「対話する力」 「論理的思考」
	10	■企業への提案プレゼンを聞いて質問する。 ① 班内でプレゼンをし、即興で質問し合う。 ② 代表生徒は発表後 ALT の質問にも答える。	○プレゼンを聞いて、即興で質問している。【外国語理解の能力】	「対話する力」 「イノベーターのマインドセット」
	11	■キャンペーン商品の宣伝のためのチラシ(広告)を作成する。	○効果的なチラシを作成できる。【外国語表現の能力】	「デザイン思考」

実践事例

英語3年

授業者	石川 理恵	授業日	9月 28日(月)
授業クラス(時限)		関連・連携の考えられる教科等と学習内容	
3年1組(2限)		社会(環境やエネルギーに関する課題) 理科(消費電力について)	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> デザイン思考 対話する力 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えたり、また、班員の意見を聞き、それらを1つにまとめる作業を通したりして、相手の気持ちを考えながら対話する力を養うことができる。 <p>【外国語表現の能力】</p>	
実社会とのつながり			
<ul style="list-style-type: none"> 環境問題だけにとどまらず、自分たちの日常生活で感じている困ったことをヒントにすることで、実社会に関わった解決策を見出すことが期待される。 英語で発信(発表)することで、日本以外の人たちにも情報を提供することができる。 			
本時の授業のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> 次時の発表に向けて、相手に伝わる発表の仕方を考え、練習を重ねる。未習語句を既習語句や文法に言い換えて相手に伝えることに重点を置かせる。 			
授業の流れ・活動等			時間
本時の流れ(第4次)			
1 あいさつ			2
<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動内容の確認。 相手に伝わる発表を意識させる。 各班に1台タブレット端末を配布し、撮影と見直しを繰り返して、発表の質を高める時間であることを伝える。 			
2 練習			25
<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末で撮影した動画を発表者自らで確認し、自分たちの発表を客観的に見直す。 班員は、伝えるための発表になっているかを確認する。(視覚効果、発表者の英語、未習語句を使用した場合の工夫、タイミングなど) 			
3 再構築			20
<ul style="list-style-type: none"> 班員から指摘があった部分を見直し、班員で再構築し、練習する。 			
4 次時の確認			3
<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 			

3年 単元名「Program3 The 5 Rs to Save the Earth」

単元計画（10時間扱い）本時は8時間目

次	時	学習内容・ねらい (■) 主な活動等 (丸数字)	評価規準・手立て (○) 指導上の留意点 (・)	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■日本のゴミ問題について考えてみよう。 ①本文を読む。 ②本文の状況の改善策を考える。	○教師の英語を聞いたり、本文を読んだりして、本文の概要を理解できる。【外国語理解の能力】	(社会：環境やエネルギーに関する課題)
	2	■自分にとって面白いことを言うには？ ①it is 形 for me to の文法を理解する。 ②自分のことについて表現する。	○文構造を理解し、用いることができる。【言語や文化についての知識・理解】	
	3	■4つめの R は、何だろう？ ①refuse の利点を本文から読み取る。 ②自分の生活に置き換えて考える。	○教師の英語を聞いたり、本文を読んだりして、本文の概要を理解できる。【外国語理解の能力】	
	4	■英語での言い方を尋ねるには？ ①how to 動の文法を理解する。 ②和製英語の英語が言えるか、ペアで尋ねあう。	○文構造を理解し、用いることができる。【言語や文化についての知識・理解】	
	5	■5つめの R は、何だろう？ ①repair の利点を本文から読み取る。 ②自分の生活に置き換えて考える。	○教師の英語を聞いたり、本文を読んだりして、本文の概要を理解できる。【外国語理解の能力】	
	6	■相手に何かを頼む表現は？ ①ask 人 to 動の文法を理解する。 ②自分のことについて表現する。	○文構造を理解し、用いることができる。【言語や文化についての知識・理解】	
2	7	■実社会に活用できる商品を考案しよう。 ①班になり、どの環境問題対策を考える ②商品のアイデアを出し合う。	○実社会にある環境問題点を挙げ、解決策を考えようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	「デザイン思考」 「論理的思考」
	8 本 時	■聞き手に伝わる発表になるよう、工夫し、練習しよう。 ①タブレット端末を使用し、練習する。 ②班で意見を出し合い、再構築する。	○聞き手にとって理解しやすい表現を用いて、発話している。 【外国語表現の能力】 ・読みづらい語句や英文には、聞き手に伝わるよう、語句のまとまりを意識させる。	(理科：消費電力について) 「デザイン思考」 「対話する力」
	9	■オリジナルエコ商品を紹介しよう。 ①班で作成した商品について、紹介する。 ②聞いている生徒は、発表者に質問をすることができる。 ③一番買いたいと思った商品に投票する。	○発表者の英語を聞き取り、理解することができる。 【外国語理解の能力】 ・発表前に練習の時間を確保する。	「論理的思考」 「多様性の尊重」
	10	■エコ商品ポスターを作成しよう。 ①担当箇所の説明文を書く。 ②画用紙に貼りつけ、仕上げる。	○読み手にとって理解しやすい表現を用いて、書いている。 【外国語表現の能力】	